

平成29年度 東京都学力調査分析 小松川第二中学校〈国語〉

1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	本校平均 (%)
話す・聞く能力	1(1)	話の内容を正確に捉えることができる。	81.4	82.6
	1(2)	話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができる。	45.5	55.3
	1(3)	二つの意見を聞いて内容を理解するとともに、観点を明確にして比較することができる。	84.3	85.6
	1(4)	適切な関心・意欲・態度をもって、話すこと、聞くことについての学習に取り組もうとしている。	96.4	96.2
			話す・聞く能力	76.9
言語についての知識・理解・技能	2(1)	小学校6年生までの学習漢字について、正しく読むことができる。	92.2	90.2
	2(2)		89.5	86.4
	2(3)		76.9	75.8
	3(1)	小学校6年生までの学習漢字について、正しく書くことができる。	58.6	59.8
	3(2)		61.5	78.8
	3(3)		74	75
	4(1)	語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。	83.6	84.8
	4(2)	熟語の意味や組み立てを理解し、文の中で正しく使うことができる。	81.1	89.4
	4(3)		89.9	87.1
	4(4)	語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。	54.2	67.4
		知識・理解・技能	76.15	79.47
読む能力	5(1)	表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取ることができる。	52.4	50.8
	5(2)	ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができる。	91.8	96.2
	5(3)	ある場面での登場人物の気持ちを読み取ることができる。	50	53
	5(4)	ある場面での登場人物の様子を読み取ることができる。	34	39.4
	6(1)	課題に即して文章を読み、課題解決のために必要な情報を正確に取り出すことができる。	63.3	65.2
	6(2)	課題に即して文章を読み、課題解決のために必要な情報を正確に取り出すことができる。	76.3	78.8
	6(3)	課題を解決するために、文章やグラフから取り出した情報を比較・関連付けて読み取る。	71.6	73.5
	6(4)	読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決することができる。	77.8	81.8
			読む能力	64.65
書く能力	7(1)	集めた材料を基に自分の考えをまとめ、材料を分類するなどして整理して書くことができる。	41.3	51.5
	7(2)①	伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。	74.1	74.2
	7(2)②	伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。	81	83.3
	7(3)	伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。	84	80.3
	7(4)	適切な関心・意欲・態度をもって、書くことについての学習に取り組もうとしている。	95.3	96.2
		書く能力	75.14	77.1

2. 結果に対する課題と改善策

〈カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策〉

・話す・聞く能力全般の正答率は79.925%(都平均76.9%)で、すべての問題で都の平均回答率を上回った。これらより、生徒が意欲的に問題を解決しようとしていることがわかる。これまでの取り組みの成果であると思うので継続させていく。

・言語についての知識・理解・技能全般の正答率は、79.67%(都平均76.15%)である。2(1)(2)(3)は漢字の読み取り問題、3(1)(2)(3)は漢字の書き取り問題であるが、都平均を下回っている項目もあるが、今までの取り組みを深化させていくことによって補填できるものと考えるので漢字の学習に関しては今まで通り継続していく。4は文法や言語に関する事項の問題であるが、4(3)が都の平均を下回っており、熟語の成り立ちの理解が不十分である。個々の生徒の理解力にも差が認められるので、今後も復習問題等を解かせ確認していく。

・読む能力全般の正答率は67.338%(都平均64.65%)で、文学的文章の登場人物の心情や行動の理由はほぼ読み取れているが、5(1)に表れているように、表現のねらいや工夫を場面と結び付けて読み取る力が弱い。ただし、説明的文章においては十分な内容理解力を確認することができる。今後も、読書量を増やしてより向上させていきたい。

・書く能力全般の正答率は77.1%(都平均75.14%)で、都の平均を上回っているが、生徒の表現力の差異が大きい。伝えたい事項を自分の考えを根拠にし、正確に書ける能力を作文指導等で高めていく。

【まとめ】

① 既習事項を忘れないための工夫

文法事項や語彙力等、一度学習し獲得した基礎力の定着を図る。教科書のみならず、参考書、確認テスト等での演習を繰り返し行う。また、その内容を定期テストにも出題することにより、復習する機会を増やす。

② 言語能力の復習、確認の徹底

国語力の基礎となる部分。漢字学習の継続に加え、熟語については語彙力を高めると共に文法的な知識を意識して学習させる。身につけさせるために問題演習指導を徹底して続け、その能力の定着を図る。

③ 授業内容の工夫

教科書の内容のみならず、言語や文学に生徒が進んで興味や関心を持ち、調べたり、読書を広げられるような授業展開を行う。また、豊かで自由な表現力に必要な「正しい」読解力や自分の考えを上手に伝える発言力、作文力を日常活動と結びつけながら身につけさせる。